



年頭にあたって



会長 蛭子政喜

会員の皆様、あけましておめでとうございます。令和6年の正月を楽しく過ごされている事とお慶び申し上げます。

昨年は北陸3県大会等お互いの親睦を図って実に有意義でした。今年も会員の安全安心を大切にしながら様子をみながら各種行事を計画したいと思います。

当会のモットーであります龍馬の生き方、考え方など通じて会員相互の連携を

より一層図る為、例会等で会員講話を中心に互いに研鑽を図り会員を増やしながより一層の交流懇親を図りましょう。

金沢龍馬会の皆様方の益々のご清栄と更なるご活躍をご祈念申し上げます。



《北陸三県龍馬会交流会 兼 富山/金沢龍馬会 20周年》

日時：9月30日（土） 14:00～19:30

場所：富山市内

富山市内にて北陸三県龍馬会交流会兼富山/金沢20周年が開催されました。

一、売薬資料館見学 14:00～15:00

富山民俗民芸村 売薬資料館

☎076-433-2866)

参加者：山田/蛭子/中田/吉田/中城/松岡/朝日/池田/堀野/松下 10名でした。富山龍馬会、越前龍馬会、ゲストとして京都祇園龍馬会より総計約30名が参加しました。先ず富山民俗民芸村にある売薬資料館を参観しました。ここには行商用具、製薬用具が展示されていました。

富山の売薬は富山藩二代目藩主前田正甫の頃、岡山の医師である万代常閑が「反魂丹」を献上した時から始まり、その評判が流布され富山の売薬が全国に広がったと言われています。



そして柳行李を包んだ大きな風呂敷を背に担ぎ全国を行商しました。

二、記念講演会

15:35～16:35

講師：

富山市学芸員 兼子 心（もと）氏

「幕末へ、現代へ、富山を支えた越中売薬」

場所：とやま市民交流館 CiCビル3階 学習室1～3

（富山市新富町1-2-3 ☎076-444-0640）

その後、富山駅前に会場を換え記念講演会を開催しました。講師は売薬資料館の学芸員「兼子心氏」で演題は

「幕末へ、現代へ、富山を支えた越中売薬」。

売薬担当者は各家庭に置薬をして次に廻った時、使った薬を補充しその分だけ代金をいただくという商法を確立しました。その明細を記した懸場帳（かけばちょう）が商権を担保します。

そして興味があるのは売薬が全国に及んだため、中には幕末に隠密のような役割を果たしたのではないかとことです。

現在記録が明確なのは五機内組、奥中国組、四国組、そして最大勢力の密田家による記録です。いずれも販売に紆余曲折があります。そして薩摩藩と富山売薬薩摩組の動きです。

幕末に差止（商売禁止）と解除（商売再開）が何度も繰り返されていることです。

薩摩藩内で薬を売りたいばかりに北海道の昆布を薩摩に供給したり、献金、鉛提供を行うことで商売を断続的に継続させました。

記録上不審なことは残っていません。しかし富山の売薬さんには記録には表せない隠密の顔があるかもしれません???

三、懇親会

17:15～19:30

場所：「リコモonte」（富山エクセルホテル東急

15階

☎076-441-0015）

最後に懇親会が催されました。富山龍馬会堀沢会長から20周年に向けての話し、社中牧田副会長による祝いの言葉、われらが蛭子会長による乾杯の挨拶が続き、それぞれ活発な交流が行われました。そして終バスにて金沢へ戻りました。

《特報》

全国大会第35回龍馬 World in 四万十

報告：吉田信夫事務局長

日時：10月28日（土）

場所：高知県四万十市（以前の中村市）

本大会：四万十市民文化センター 13:00～

交流会：新ロイヤルホテル四万十 18:00～

エクスカージョン：10月28日（土）

及び10月29日（日）

10月28日「第35回龍馬 World in 四万十」が開催されました。参加者は蛭子/朝日/吉田 3名でした。

四万十市は高知県の西部に位置し以前は中村市と呼ばれており、清流四万十川の河口部にあたります。高知市からやおら2.5時間かかる場所です。そのためか高知市とは言葉も違うようです。

数年ぶりに病気より回復された橋本会長が登壇されました。

そして主催者や来賓の挨拶が語られたあとに基調講演が行われました。

脚本家の福田靖氏の「龍馬伝」でした。NHK大河ド

ラマ「龍馬伝」を書いた脚本家ですから、脚本を書き上げた内容のみならず、大河で「龍馬」を選んだ理由や主演の福山雅治を選定した経緯など説明されました。また脚本の書くにあたっての方針や、大沢監督の画像の撮り方の独自性を説明されました。

その後、元高知県坂本龍馬記念館学芸課長前田由紀枝氏をコーディネーターとし、上記福田靖氏、龍馬伝の制作を担当した元 NHK 土屋勝裕氏、四万十市教育委員会生涯学習課係長川村慎也氏をパネリストとしたパネルディスカッションが開催され上記基調報告を進化したディスカッションが行われました。

なお各種主要テーマの間には各種アトラクションが演じられました。例えば三味線演奏、演武披露、よさこい演舞披露でした。



その後会場を変え、親睦会が行われ四百数十人が集結しました。その中で金沢市内出身の木戸和美さんが金沢大学薬学部勉学中、四万十市出身の彼氏と結婚しこちらに住まれ、長年夫婦で薬局を営われ、余暇に歴史文化活動をされておられるとのこと。「金沢に龍馬会があるとは」と驚いておられました。来年はいよいよ近畿北陸ブロック担当にて和歌山で全国大会開催となります。

志士たちが活躍した長崎とは⑱

石田英吉

バリバリの尊皇攘夷の志士であり、海援隊士だったが、維新後は知事となった。本名は伊吹周吉だが脱藩後「石田英吉」と改名した。

龍馬より4歳年下で天保10年(1839年)土佐安芸にて藩医の子として出生。龍馬の叔父である高松順蔵の私塾や藩校田野学館で学んだ。

そして家業の医学を学ぶため名門である大阪の適塾へ入塾。しかし文久3年(1863年)脱藩し、吉村虎太郎率いる彼の有名な天誅組に入隊し大和で拳兵し転戦する。長州へ敗走する。

元治元年(1864年)の禁門の変にも参加し、再度長州へ敗走。高杉晋作が組織した騎兵隊に参加した。

その後、長州藩海軍局に入隊し、龍馬が指揮した長州藩の乙丑丸にて(輸入時はユニオン号、薩摩藩所有の時は桜島丸)砲手長を務めた。ここまでの経歴をみると幕末志士の代表的戦いにほとんど参加したにも関わらず無傷であった。

慶応2年(1866年)亀山社中に参加した。その後の海援隊では使者となる。龍馬亡き後、英吉は長崎にとどまった。

慶応4年(1868年)1月に、長崎は在長崎各藩に管理された。英吉は長崎奉行所の警察隊である遊撃隊に乗り込み新政府に協力するよう説得した。

そして4月遊撃隊が解散し振遠隊となり、英吉は御用掛に就任した。7月には新政府に協力しない奥羽諸藩を鎮圧するため隊長となり東北地方を転戦した。

振遠隊は秋田に上陸し、北上した庄内藩と戦ったが敗走した。その後、参謀に抜擢され庄内藩が降伏すると盛岡へ進軍し盛岡城に入場した。年末には長崎に凱旋した。長崎府初代知事である澤宣嘉より栄誉を受けた。将に幕末史の生き証人である。

維新後は秋田県令、長崎県令、千葉県知事、高知県知事を歴任。長崎在任中の業績は学校の設置、河川工事、県道開通、疾病対策などがある。県令は中央任官であるにもかかわらず、彼は脱税に厳しく地方税制に対し、公平均衡に心がけた。

彼は長崎に育てられたという想いがあり、しっかりと任務を遂行し長崎に尽くそうという意識が強かった。そして海援隊時代の同志である陸奥宗光が農商務大臣の時は次官となり、国政を相談された。

維新功労者として男爵となり貴族院議員を続け63歳で没し従二位が追贈され勲一等瑞宝章を叙勲された。

参照：ウキペディア、長崎新聞



亀山社中や長崎龍馬像に至る、寺町から風頭山中腹の坂道にある、多くの社中隊士紹介の案内板の一つ

【編集後記】

皆さま、今年も宜しくお願いします。昨年の富山での『北陸三県大会』や「高知での全国大会」のお話もいつかお逢いした時に伺うのが楽しみです。心の中に常に“龍馬の志し”を持ち張り切ってまいりましょう。

会報も第38号が完成、漸く皆さまにお届けすることが出来ました。

***** 事務局*****

金沢龍馬会

会長：蛭子政喜
事務局長：吉田信夫
080-5600-1113



jitianxinfu@hotmail.com

会報担当：中田俊郎 090-7806-2269

n-toshio@muj.biglobe.ne.jp

金沢龍馬会 公式ホームページ

<http://kanazawa-ryomakai.com/>

金沢龍馬会 facebook

<https://www.facebook.com/kanazawa.ryomakai?sk=wall&filter=2>